

# 文書館だより

TEL027 (221)2346

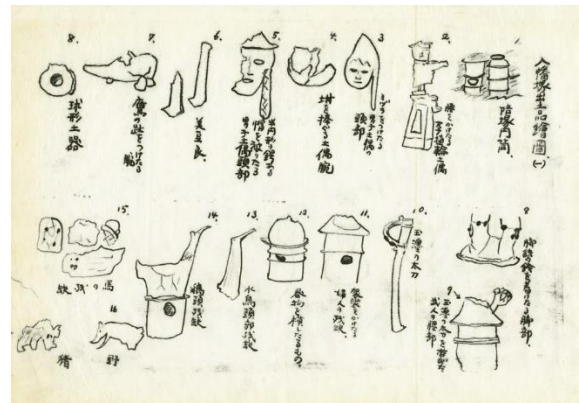
URL <https://www.pref.gunma.jp/site/monjyokan/>

第70号 令和8年3月



番 考 事 項	管 理 ノ 有 無	山 來 徴 品	出 土 品	現 在 有 無	大 小	型 式	所 有 者	地 目 地 種	所 在 地	名 稱
			別紙の上記	往例あり	往例あり	往例あり	往例あり	往例あり	往例あり	往例あり

古墳調査票 群馬県立文書館



## —古墳調査台帳—

群馬が「古墳大国」と呼ばれるようになる歩みは、昭和10（1935）年に行われた大規模な古墳一斉調査にさかのぼります。

この調査のきっかけとなったのは、前年の天皇行幸で起きた「昭和天皇誤導事件」でした。巡幸経路の誤りを受けて金沢知事が辞任し、新任の君島清吉知事は“敬神崇祖”の姿勢から県内の史跡整備を進めました。東京帝国大学の黒板勝美教授を招いて視察や講演を行い、史跡を体系的に把握し守るための体制づくりと、古墳台帳の作成が提案されます。こうした動きを受け、昭和10年夏には全国でも先駆的な一斉調査が実施され、その成果として台帳が編まれました。

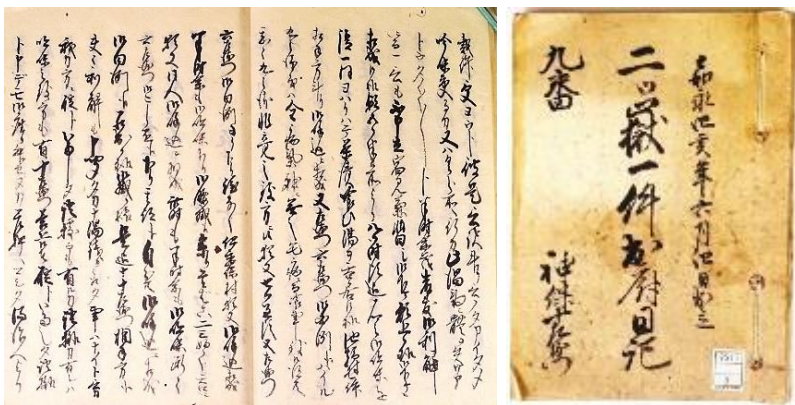
このとき作られた「古墳調査台帳」は、昭和10年8月の現地踏査の結果をまとめたもので、1,593名の郷土史家、教職員、町村役場職員が参加しました。調査では県内に8,423基もの古墳が確認され、色彩豊かな水彩画や詳細なスケッチを添えた記録も残されています。現在の群馬における古墳研究の基礎となった、きわめて重要な史料です。この成果を基礎に、その後の古墳研究は『上毛古墳綜覧』（昭和13年）や『群馬県古墳総覧』（平成30年）へとつながりました。県内の古墳研究の発展を支える礎となった「古墳調査台帳」は、令和8年3月6日付けにて群馬県の登録文化財となりました。

## 収蔵史料でたどる江戸と上州の繋がり～上州に吹いた江戸の風～の開催



テーマ展示1では、江戸時代における江戸と上州の繋がりをテーマに設定しました。関八州に含まれる上州は、中山道や三国街道など、江戸と地方をつなぐ重要交通網が走り、江戸との人、物、情報などの交流が活発な地域でした。江戸に幕府が置かれ、政治の中心地となると、将軍の御膝元であった関八州は江戸の影響を大きく受けた地域でした。当館では、遠く離れた江戸を身近に感じる様々な史料を収蔵しています。当館の史料から、江戸の文化や知識とつながる上州の人々の営みを紹介しました。8月1日から12月26日の会期中には同時開催したインターネット展示を含め、延べ1,000人以上の方にご観覧いただきました。

### 展示史料紹介



「二ツ嶽一件出府日記 九番」嘉永4年(1851)6月  
(前橋市池端町自治会文書 P9515 No.9)

榛名山二つ岳には湯気が立ち上る場所があり、江戸時代の中頃から幕末にかけて、蒸し湯(蒸し風呂)をめぐる周辺の村々が度々訴訟を繰り返して、村と江戸を行き来していました。この史料は、弘化4年(1847)から続く江戸出訴中の日記の最終巻(9冊目)です。下野田村と伊香保村が結託し、小屋を建てて湯銭を取って営業したと池端村が訴え、4年に及ぶ訴訟が始まりました。この巻には、江戸滞在時の記録が記されており、ここでは御白洲において白熱する取り調べの様子が記されています。「ドウダドウダ」など話し言葉が文字になっている珍しい史料です。

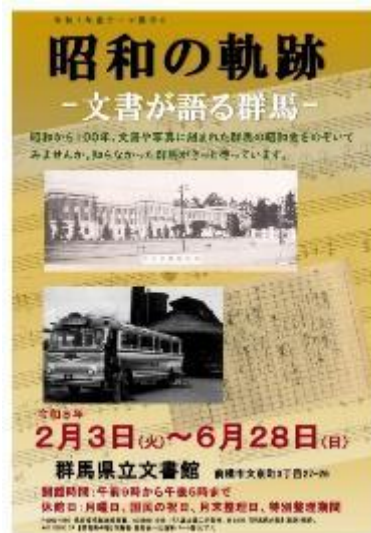
## 昭和の軌跡—文書が語る群馬—の開催

テーマ展示2では、今年が昭和元年から100年の節目に当たることを踏まえ、昭和の群馬に関する史料を展示しています。戦争、復興、高度経済成長を経て歩んだ昭和の時代は、群馬の県政や地域社会、そして私たちの暮らしに大きな変化をもたらしました。

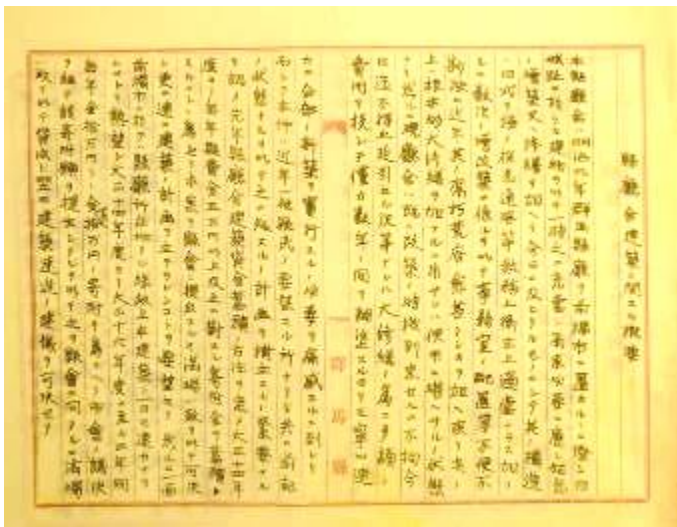
今日の安全な生活基盤や産業、文化といった日々の暮らしを支える土台は、先人たちの不断の努力と選択の積み重ねによって形づくられてきました。その歩みは、当館が収蔵する行政文書をはじめ、写真、新聞など、多様な文書に残されています。

本展示では、これらの文書を手がかりに、昭和期の群馬が歩んだ道のりを五つの章で紹介します。

開催期間は令和8年2月3日(火)から6月28日(日)までを予定しています。



展示史料紹介



群馬県行政文書『県庁舎建築関係書類』(A0181A0T 851)

この文書は、群馬県庁昭和庁舎の新築理由と建設計画を群馬県庁地方課がまとめたものです。旧県庁舎は慶応3（1867）年築の旧前橋城の建物で、増改築を重ねても老朽化が進み、建替えが必要になっていました。

財源は県費と寄附金の積立で確保する計画でしたが、前橋市から30万円の寄附申出があり、一般県費・不要財産処分収入・特志者寄附金を合わせた新たな財源計画が立てられました。

文書館の逸品の開催

文書館の逸品展Ⅰ「田村梶子による手習本」(令和7年5月1日(木)～6月29日(日))

江戸時代中期以降、寺子屋は庶民教育の場として広まりました。田村梶子は、大奥で祐筆を務めたと伝わる能筆家で、礼法や和歌にも通じ、橘守部の門人でした。

松声堂を主宰し、桐生地方における女子教育を支えた女性師匠の一人として活躍しました。

展示史料紹介



「いろは」(平仮名の学習)

下久方村（現・桐生市）の寺子屋「松声堂」で女師匠を務めた田村梶子（1785～1862）が、筆子の吉田元次郎のために書いた手習手本です。



「国尽」(当時の国名)



「近道子宝」(自然現象・衣食住の語句)

〔吉田元次郎、吉田歌子書手習本一括〕（東京都千代田区吉田允俊家文書(橘守部関係資料)PF9801 89-90/406)

## 文書館の逸品展 2 十返舎一九 著『続膝栗毛 十編』(上州草津温泉道中) ～温泉史料としての文学作品～ (令和7年7月1日(火)～8月31日(日))

信州善光寺から上州草津温泉までの滑稽で自由きままな珍道中が、おなじみの「弥次喜多コンビ」によって展開される内容で、文化・文政時代(1804～1830)の爛熟した江戸文化の様子を感じることができる作品です。また、同じく一九が著した道中記『諸国道中 金の草鞋 十三』文政3(1820)年と共に、当時の草津温泉の繁栄や湯治の実態を伝える史料としても非常に貴重な作品です。

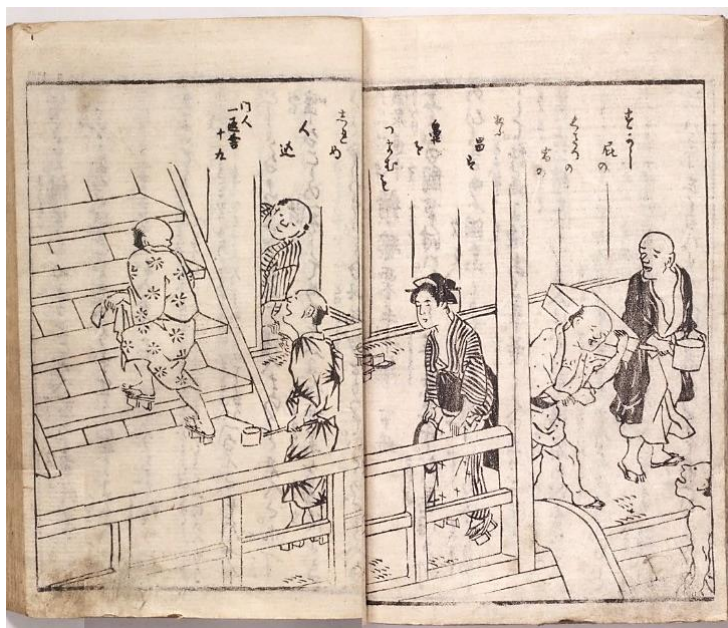
### 展示史料紹介

『東海道中膝栗毛』(初刷り：享和2年(1802)～文化11年(1814))で名をあげた十返舎一九(明和2年(1765)～天保2年(1831))が前作と同様に、弥次郎兵衛、喜多八の珍道中の続編として刊行した滑稽本です。「膝栗毛」とは、自分の膝を栗毛の馬の代わりに使う徒歩での旅行という意味です。

『膝栗毛』のシリーズは、文学的な価値が高いことは言うまでもなく、十返舎一九本人の調査旅行に基づいた記述内容や豊富な挿絵から、江戸時代の旅行や観光地の実態を記録した史料としても高く評価されています。

展示部分からは、江戸時代の草津温泉における湯治のシステムの一部を窺い知ることができます。また、挿絵とそこに添えられた狂歌には、賑わう湯治宿の様子や、強酸泉の独特な臭気がリアルに表現されています。

江戸時代後期には、寺社参詣などにともなう江戸から地方への旅行文化が爛熟期に入ります。そのような時代背景の中で、旅行記や旅をテーマにした戯作が数多く出版され、これらの出版物は旅行ガイドとしての役割も果たしました。



続膝栗毛 十一編上下、十編上下(上州草津温泉道中)(土屋喜英家文書 P1103 No.405)

**文書館の逸品展 3 「鈴木貫太郎書状」(八月十五日暴徒襲撃慰問の礼状)**

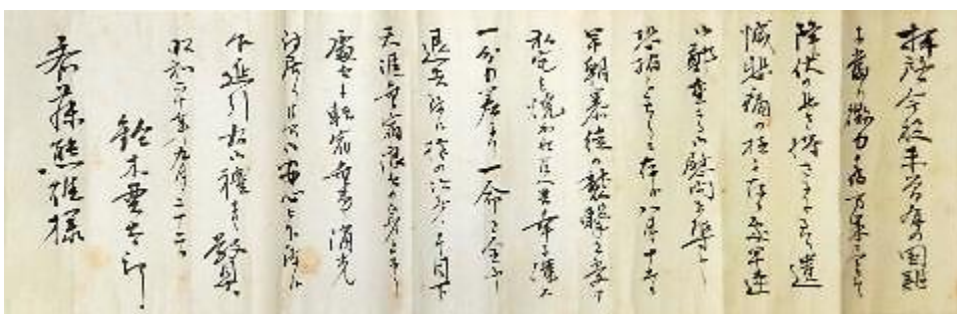
(令和7年9月2日(火)～10月30日(木))

本書状は、太平洋戦争終結時の内閣総理大臣である鈴木貫太郎直筆の書状です。

昭和20(1945)年8月15日、終戦当日に降伏に反対する武装集団から襲撃を受けた鈴木が、群馬県中学校(現在の県立前橋高校)の同級生である齋藤熊雄氏から寄せられた慰問の言葉に対し、その感謝の意を表して送付したものです。本書状は、戦争終結の舞台裏を伝える資料として、歴史的価値の高い逸品です。

**展示史料紹介**

冒頭の、「未曾有の国難」「万策尽きて降伏の止むを得ざるに至り」といった表現からは、当時、国の命運を背負った首相としての深い苦悩と無念が、率直に綴られています。また、襲撃の際、警護官によって間一髪のところまで救出された鈴木は、書状の中で「一分の差」で退去したと記しており、当時の緊迫した状況が伝わる内容です。



「鈴木貫太郎書状」(齋藤忠一家文書 P09506 No.128)

**文書館の逸品展 4 戦国を生きた異能の僧侶 教如の書状～当館収蔵戦国期文書の逸品～**

(令和7年11月1日(土)～12月26日(金))

令和8年放送のNHK大河ドラマは、豊臣秀吉の弟で秀吉の天下統一に大きな役割を果たしたとされる豊臣秀長が主人公として取り上げられました。歴史愛好者にも人気の高い戦国期がテーマとなるだけに、1月からスタートするドラマの放送に向けて、この時代の人物に対する関心の高まりが予想されました。

そのような状況を踏まえ、「文書館の逸品4」では、信長・秀吉・家康と対立や融和をめくり渡り合った本願寺門主教如の書状を紹介しました。教如は、本願寺の東西分派の中心人物であり、本願寺(西本願寺)から東本願寺を分立させる際に、妙安寺(前橋市)から宗祖親鸞聖人の木像を遷座させた人物としても知られます。

本文書を通じて、当館が収蔵する貴重な戦国期の古文書について知っていただき、是非、閲覧室にて原本を手にとって御覧いただければと思います。

**展示史料紹介**

差出には「本門 寿」とあり、木版花押が据えられています。「本門」は本願寺門主を表すものであり、「寿」は名前の一部を表すものと考えられると、差出人は「光寿」の諱いみなを持つ東本願寺12代門主である教如と比定できます。

宛所の「松平左衛門督」は、徳川四天王の筆頭



【本願寺教如書状】(極月十八日)

※文禄元年(1592)～文禄四年(1595)の間に発給  
(八木健次家文書 P09702 No.1592-6)

とされる酒井忠次（1527～1596）である可能性が高く、教如が本願寺門主に就任していた期間と酒井忠次が左衛門督に任官されてから死去するまでの期間を考えると、本文書は文禄元年（1592）～文禄四年（1595）の間に発給されたものと考えられます。

内容は、教如が歳暮の品として小袖を酒井忠次に贈った折の添状と思われます。徳川家康への取次を担っていたであろう、忠次への配慮が窺える興味深い史料です。

### 文書館の逸品展 5 天下人 豊臣秀吉の書状 （令和8年1月6日（火）～2月27日（金））

令和8年1月から、天下人となる豊臣秀吉とその弟秀長の絆が描かれるNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」が放送されています。「文書館の逸品5」では大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送開始にちなみ、豊臣秀吉が発給した書状を紹介しました。書状の内容は、端午の節句に本願寺が帷子を献上してきたことへの秀吉からの礼状です。本文書を通じて、天下人秀吉が生きた時代の息吹を感じていただければと思います。

#### 展示史料紹介

端午の節句に本願寺が帷子を献上してきたことへの秀吉からの礼状です。秀吉の側近であった木下吉隆（？～1598）が発給に関わっていたことが分かります。文書の発給年代は記されていませんが、木下吉隆は文禄2年（1593）10月6日までには大膳大夫に任じられ、同4年7月13日までには秀次事件に関与し流罪が決定しているため、文禄3年か4年の5月に出された文書と推定できます。

秀吉は本文書発給直前の文禄2年（1593）に、教如（1558～1614）を本願寺門主から退け、弟の准如（1577～1631）を新門主に据えています。今回紹介した文書は、そのような本願寺教団分裂のさなかに発給されたと思われる文書であり、天下人秀吉と本願寺教団の複雑な関係をうかがい知ることが出来る興味深い史料です。



〔豊臣秀吉朱印状〕(年不詳五月二日)

※文禄3年(1594)もしくは文禄4年(1595)に発給か

(八木健次家文書 P09702 No.1592-7)

### 文書館の逸品展 6 「古社寺調」桜咲き誇る（龍海院絵図）

(令和8年3月3日（火）～4月28日（火）)

明治維新による廃仏毀釈や文明開化の流れは、古くからの伝統文化（美術品や建造物など）を軽視する風潮を生み、多くの文化財が危機に直面することとなりました。

そこで明治政府は明治28年（1895）、各府県に対して保護対象となる古社寺の実態調査を指示し、報告書と絵図の提出を求めました。これが「古社寺調」と呼ばれる調査です。

「群馬県行政文書」として残る資料は、これを受けて明治29年（1896）に作成された報告書の控えです。この調査結果をもとに、明治30年（1897）には「古社寺保存法」が制定され、日本における文化財保護行政が本格的に始まりました。

この控えには、現在では失われた寺社の当時の景観が詳細な絵図で残されており、県の歴史を物語る第一級の史料です。

## 展示史料紹介

本調査では、所在地名・名称・祭神（もしくは本尊）名・創立の由緒沿革・見取図などの記載が必要とされています。中でも見取図は、色鮮やかに描かれているものも見られます。

展示史料は、江戸時代に前橋藩主酒井家の菩提寺であった龍海院（現在は前橋市紅雲町所在）に関するものです。見取図（絵図）の中央に描かれた山門には、正面南側に増長天王像、北側に毘沙門天王像が納められています。また、絵図の下部に示されている門や塀は、現在では失われています。

さらに、絵図に描かれている桜は、現在も春には境内で咲き誇り、往時をしのぼせる景観が広がっています。



『前橋市古寺古社調』(一部抜粋) A0181A0M 2315

## 令和7年度の学校連携

令和7年度の学校連携では、小学校の授業支援（総合的な学習の時間）、中学校の職場体験学習、高校生のインターンシップ、教職員向け研修講座を実施しました。今年度の取組について主なものを報告します。

### 1 授業支援（小学校への協力）

9月19日に前橋市立天川小学校3年生の「総合的な学習の時間」に関連して授業支援を行いました。当日は3クラス81名の児童に交代で来館してもらいました。天川小学校の地域にあるもので、みんなに知らせたいことを探して調べ、おすすめスポットとして紹介するという学習です。前半では、「上毛かるたの札を探そう!」というテーマを設定し、当館で収蔵する上毛かるたの札にまつわる歴史資料について複製物や実物を展示し、各自が興味のある史料を自由に見学し、各担当職員が史料について説明を行いました。後半では、「文書館を探検しよう!」というテーマで、グループごとに施設を見学し、当館の規模や機能を知ってもらう活動を行いました。



### 2 職場体験学習・インターンシップ（中学校・高等学校への協力）

前橋市立第五中学校と群馬県立前橋商業高等学校、群馬県立高崎北高等学校、群馬県立高崎東高等学校の職場体験学習及びインターンシップを受入れました。前橋第五中学校（11/19～21）は2年生の生徒4名が3日間、前橋商業高等学校（10/21～22）、高崎北高等学校（11/13～14）、高崎東高等学校（12/4～5）は1年生の生徒各2名が2日間、それぞれ来館して文書館の業務を体験しました。中学生は体験的に学ぶことを通して、勤労の意義や尊さを学ぶことを、また高校生は社会の実態を理解しながら、将来の進路選択に活かすことを目的に、それぞれの目的に応じたプログラムを設定し活動してもらいました。実施した体験は次のとおりです。



#### （1）オリエンテーション

- ・文書館が果たしている役割と仕事内容を知ってもらうための講義
- ・文書館内での注意事項（書庫内への下足禁止、飲食の決まりなど）

#### （2）古文書係

- ・古文書に関する基礎的な知識と古文書の取扱い方の講義
- ・展示に関連した史料紹介パネルの作成
- ・受入文書群の整理作業

#### （3）公文書係

- ・絵図や簿冊の状態調査の体験（寸法の計測、簿冊の状態のチェック）
- ・書庫内での配架・整理作業
- ・状態調査の記録をデータ入力する体験

#### （4）閲覧

- ・出納体験（目録検索システムの体験、書庫からの出納、貸出・返却のチェック）
- ・アーカイブビューアーの操作体験

#### （5）IPM

- ・IPMについての説明（温湿度の管理、カビや害虫から文書を守ることの必要性）
- ・書庫の温湿度調査（書庫内の温湿度計のチェックと記録）
- ・害虫調査（館内に設置してある害虫トラップを回収して捕獲した害虫を調べる）

なお、各高等学校では、インターンシップの事後に学習のまとめとして発表会を実施しています。インターンシップで学んだことを同級生に発表する中で、文書館の役割や職員の働く姿勢、インターンシップを通じて考えた職業観などを伝えていました。

### 3 教員向け研修講座の実施（群馬県総合教育センターへの研修協力）

総合教育センターが主催する令和7年度研修講座「社会科・地歴公民科研修講座」の一環として、9月16日に研修講座を実施しました。この講座も今回で5回目となり、プログラムとして定着してきています。今年度も高等学校の地理歴史科・公民科の初任者研修を兼ねており、義務教育（中学校）籍4名、高等学校初任者12名を含む20名の先生方に参加していただきました。

講座は、郷土の歴史資料（郷土史料）を教材化することの根拠や意義、教材化する方法につ

いての講義「研修1：郷土史料の教材化について」と、参加者が実際に教材化を考える演習「研修2：郷土史料の効果的活用について」の2部構成で実施しました。

研修2では、当館で作成した教材化史料（当館HPで公開中）の中から、数点を選んで実物を準備し、担当職員が解説し、それらを実際に見てもらいながら授業の構想を考えていただきました。史料活用の幅を広げることを前提に、日本史分野に限定しない形で、参加者に考えていただくようにしました。また、グループは多様な観点から意見が出るよう、校種や実務年数が混ざるように編成を工夫しました。参加者は並べられた史料をよく見て吟味し、担当職員のアドバイスを受けながら、授業に活かすアイデアを考えていただきました。活用する史料が決まると、アイデアをワークシートにまとめ、グループ内で活発に議論していただきました。校種や自分の専門科目の違いから、それぞれが選んだ史料の活用の仕方に感銘したり、発表から自らの授業実践に役立つヒントを得たりする様子が多くみられ、活発な意見交換が行われていました。



## ワークショップ「浮世絵多色刷り体験」

8月21日（水）に当館において「浮世絵多色刷り体験」のワークショップを開催しました。NHK 大河ドラマ「べらぼう」にも登場した浮世絵を「多色刷り体験」できる貴重な機会ということで、大変多くの方にお申し込みいただき、大盛況のワークショップとなりました。実際の体験活動では、群馬県立歴史博物館の職員の方に丁寧にレクチャーしていただき、小中学生の参加者や保護者の方からも「楽しかった！」「またやってみたい！」など高評価をいただきました。また、ワークショップ終了後に開催したテーマ展示の解説会にも、20名以上の方が参加して、江戸時代の絵図などを中心に興味深く見学していただきました。



## ぐんま史料講座開催報告

### 「第1回ぐんま史料講座」

10月25日に品川区立品川歴史館学芸員の富川武史先生を講師にお迎えし、今年度の「第1回ぐんま史料講座」を開催しました。今回の講座は、群馬県内に伝来した幕末の江戸湾品川御台場普請にまつわる史料をテキストとし、「幕末の江戸と上州～群馬の村が関わった品川御台場普請事業～」と題して行われました。令和7年度テーマ展示1「収蔵史料でたどる江戸と上州のつながり～上州に吹いた江戸の風～」にも関連した内容です。

藤岡市にある御荷鉾山の山林は、江戸時代には幕府が直接管理する山林でした。ここからは幕府の建設事業に利用される木材が数多く江戸に運ばれていました。幕末に江戸を外国船の攻撃から防御するために江戸品川沖に設置された台場の建設にも御荷鉾山の木材が利用されていました。今回の講演では、そのような幕末における上州の山村と江戸のつながりについて、御台場普請との関係を中心に講演していただきました。

品川御台場研究の論考を多数発表されてきた富川先生ならではの切り口で、各種の歴史資料を読み解きながら非常に分かりやすくお話ししていただきました。



### 「第2回ぐんま史料講座」

2月7日に桐生市史近世部会専門委員の巻島隆先生を講師にお迎えし、「第2回ぐんま史料講座」を開催しました。今回の講座では、江戸時代の飛脚問屋京屋弥兵衛藤岡店の支配人を務めた富田永世と彼が上野国の歴史や地誌をまとめた地誌「上野名跡志」について講演していただきました。

講演では、本業の飛脚問屋京屋藤岡店の支配人である傍ら、和歌・狂歌を詠む文化人でもあった富田永世の多面的な生きざまと業績について紹介していただきました。その上で、混迷を深める今日にあって、富田永世が獲得した地域社会を誇りと共に客観視する「眼差し」から我々が学ぶことの意義について語っていただきました。

近年多くの近世交通史関係の御著書を発表されている巻島先生の講義とあって、定員を上回る申し込みをいただき、大盛況の講座となりました。



## 古文書講座開催報告

### 1 古文書入門講座

令和7年度の古文書入門講座は、6～7月の全4回で開催しました。講座では古文書の書体・文体や学習のやり方といった基本から始まり、江戸時代の代表的な形式の古文書を実際に読解しながら、段階を追って古文書解読の基礎についての講義を行いました。最終日に実施した受講者アンケートには、スライドなどの作り方や「御・被・候」などの読解のポイントを押さえた内容を評価するコメントが多く見受けられました。

	開催日	テーマ	講師
1回	6月14日(土)	文書館ガイダンス、数字、元号干支に親しむ	須藤 聡 (古文書係長)
2回	6月21日(土)	人名、仮名、地名に親しむ	
3回	6月28日(土)	「村方文書」に親しむ1 検地帳・宗門人別帳・年貢割付状等	小嶋 圭 (古文書係員)
4回	7月5日(土)	「村方文書」に親しむ2 送り証文、引取り証文、関所通り証文等	

### 2 長期古文書講座

令和7年度の長期古文書講座は、当館の古文書講座を受講したことのある方をはじめ、既に古文書解読の経験がある方を対象に実施しました。内容は中近世から近代の時代ごとにテーマに沿った複数の古文書を扱う前半、近世の冊物類から1点を中心に据えて読み進めていく後半の2部構成での講座としました。

講師は当館職員のほか、前半の近世文書編と近代文書編では巻島隆先生・丑木幸男先生の両名をお招きし、豊富な知見と様々な史料に基づいて講義をしていただきました。入門講座と比べて高度な内容でしたが、最終日に実施した受講者アンケートでは、全ての回答者から非常に高い評価をいただきました。

前半	開催日	テーマ	講師
1回	9月13日(土)	近世文書概論・近世文書読解演習 古文書に見る野生動物—熊、猪、鹿、狼—	巻島 隆 (桐生市史近世部 会専門委員)
2回	9月20日(土)		
3回	9月27日(土)		
4回	10月4日(土)	近代文書概論・近代文書読解演習 小栗上野介関係史料／選挙関係史料	丑木 幸男 (国文学研究資料 館名誉教授)
5回	10月11日(土)		
6回	10月18日(土)	中近世文書概論・中近世文書読解演習 南北朝～室町期武家文書／戦国期武家文書	須藤 聡 (古文書係長)
7回	11月1日(土)		
後半	開催日	テーマ	講師
8回	11月8日(土)	近世文書特論 赤堀家文書「天保弘化年間記聞上」を読む	関口 荘右 (古文書係主幹専 門員)
9回	11月15日(土)		
10回	11月22日(土)		

入門・長期講座ともに、講義で使われた古文書はすべて文書館収蔵のものとなっており(一部複製資料での閲覧)、これまでのテキストの販売もしております。

## 新たに収集した古文書・新たに閲覧公開した古文書

### ●新たに収集した古文書

No.	伝存地・文書群名等	内容等	点数
1	安中市安中 安中総合学園高等学校収集文書 (収集)	安中総合学園高等学校に伝存し、同校図書室が保管していた文書群。前身の群馬県尋常中学校碓氷分校(明治30年設立)以来の古書籍を中心とした収集文書。	196点
2	前橋市北代田町 藤井保仁家文書(寄贈)	藤井保仁氏の祖父藤井保行氏が旧制前橋中学校在学中に残した日記類や教科書、学習ノート類、保行氏が小学校教員時代に残した日誌などが大半を占める。	約371点
3	東京都東久留米市 牛米努氏収 集文書(寄贈)	東京都東久留米市在住の牛米努氏が収集(購入)した群馬県内各地にまつわる明治期～昭和20年代の近代史料16点。	16点
4	吾妻郡東吾妻町原町 富澤久幸家文書(追加寄託②③)	天明3年(1783)に発生した天明泥流の顛末について、原町の富澤久兵衛が残した記録および付属する被害絵図。	②2点 ③1点
5	前橋市 江原家旧蔵文書(収集)	明治から大正にかけて活躍した前橋出身の政治家であり実業家でもあった江原芳平の4男邦次の家系に伝来した文書群。	250点
6	高崎市八幡原町 原田雅純氏収集文書(寄贈)	県内在住の交通史研究者である原田雅純氏が青年期から収集した群馬県内の鉄道に関する史料(昭和9年度 陸軍特別大演習作業計画(客貨車関係)など)。	9点
7	東京都狛江市 樋口諒氏収集文書(寄贈)	樋口諒氏が購入した近世高井村(前橋市元総社町)及び只上村(太田市只上町)の土地関係史料。	8点
8	桐生市黒保根町 小林善紀家文書(寄贈)	黒保根町上田沢の小林家に伝来した近世名主文書約1300点および明治期戸町役場文書約500点(総数約1800点)。	約1800点

### ●新たに閲覧公開した古文書

No.	伝存地等・文書群名	内容・点数(請求番号)
1	群馬郡倉渕村権田(現高崎市) 中島家旧蔵文書	権田村(高崎市倉渕町権田)の文書群。近世から明治初年の街道筋の絵図2点のほか、寛文11年(1671)年10月の権田村の検地帳、天明期から明治初年に至る権田村の年貢皆済目録や年貢割付状などで構成されています。 52点(P02101)
2	前橋市旧神明町 前橋市旧神明町文書	神明町に伝わる区有文書で、すべて近現代文書で構成されています。戦中の文書では、砂糖・油・練炭など生活物資の配給や回数購入に関する文書が多く含まれています。 1,002点(P00203)

3	伊勢崎市曲輪町 下城株式会社文書 (第2次公開)	伊勢崎市の下城家・下城株式会社に伝来した文書。織物業等を営んでいた同社の経営に関わる文書等の近代文書を中心に、下城弥一郎の県議会議員当選、再当選時の史料や、伊勢崎織物同業組合に関わる史料などが含まれています。 1,909点 (P9602)
4	兵庫県姫路市 前橋藩酒井家文書 (第4次公開)	前橋藩酒井家に伝わった文書群(姫路市立図書館所蔵)。今公開分には、将軍からの御内書・老中連署書状・老中書状など、将軍や老中からの書状が多数含まれています。 3,609点 (PF821)
5	碓氷郡松井田町五料(現安中市) 中島徳造家文書 (第7次公開)	江戸時代に茶屋本陣(お東)が置かれ、お西と交代で五料村の名主を世襲してきた中島家に伝来した文書。今回の公開分は、近世文書が約1,100点、近現代文書が約3,500点です。この公開で中島家文書のうち、22,132点が閲覧可能となりました。 4,605点 (P8909)
6	吾妻郡嬭恋村大笹 栃原まつ江家文書	大笹関所の関所番人を務めた栃原家に伝わった史料です。信州街道や大笹関所に関わる重要な近世史料が含まれています。 121点 (PF9903)
7	吾妻郡嬭恋村大笹 栃原仙次郎家文書	大笹関所の関所番人を務めた栃原家に伝わった史料です。信州街道や大笹関所に関わる重要な近世史料が含まれています。 20点 (PF9904)

※No.4・6・7は複製本による閲覧となります(請求番号がPFはマイクロフィルム収集文書)。

## 県から新たに移管された歴史公文書

移 管 令和7年度の文書整理において、保存期間の満了した文書の中から県各所属が文書館に移管した歴史公文書は1,004冊でした。(詳細は次表のとおり。)うち保存期間を満了し管理委任が解除となった文書から移管されたものは712冊でした。

管理受任 令和7年度に管理委任により県の各機関から受け入れた文書は、352冊でした。

### 令和7年度移管文書の部局別冊数

部局名	冊数	部局名	冊数
知事戦略部	33	企業局	9
総務部	14	議会事務局	3
地域創生部	214	教育委員会事務局	46
生活こども部	7	県立学校	6
健康福祉部	129	警察本部	3
環境森林部	126	公立大学法人	6
農政部	108	合 計	1,004
産業経済部	61		
県土整備部	238		
会計局	1		

(参考) 令和6年度の状況  
 ・移管 1,234冊  
 ・管理受任 428冊

## レファレンス事例紹介

## 事例 1

## 〈質問〉

論文の執筆をしている大学生です。国立国会図書館デジタルコレクションの史料で読めない部分があります。教えていただけませんか。

## 〈回答〉

上野国や群馬県に関連する史料であれば解説のお手伝いをさせていただきます。史料の画像と積文(解読文)をメール等で送っていただいた後、回答させていただきます。他施設所蔵史料のレファレンスの場合、まずは所蔵施設への問い合わせをお勧めしておりますが、難しい場合には当館でレファレンスを行わせていただいております。気軽に御相談ください。

## 事例 2

## 〈質問〉

東京都三多摩の風船爆弾を調べています。昭和19年より米国本土に放球した風船爆弾の製作に必要な蒟蒻の供出に関する公文書(農業会への供出)などがあれば教えてください。

## 〈回答〉

『特殊農産物雑事(蒟蒻原料統制関係)』(昭和19年度 請求番号A0181A0S 文書番号828)に2点の関連文書があります。内容としては、農林省農政局長から群馬県知事への昭和19年度蒟蒻生産割当の通牒及び群馬県経済部長から群馬県農業会長への郡市ごとの蒟蒻生産割当の通牒となります。

## 事例 3

## 〈質問〉

桐生市川内町の小字名がわかる地図を探しています。教えていただけませんか。

## 〈回答〉

『桐生市埋蔵文化財分布地図・地名表』(GS GS19950573)に該当の地図があります。ただし、著作権法の規定により複製は各地図の半分までしかできません。昭文社発行の道路地図、または国土地理院「2万5千分1地形図」に記載されている小字名もあります。また、『上野国郡村誌』の字地の記載からもおよその位置関係がわかります。

## 事例 4

## 〈質問〉

一族の墓地(32軒で共同管理)に建つお堂に古文書があり読めずに困っています。また、先祖代々の墓地ですので、その由来や歴史背景などをまとめておきたいと思っています。一族の者が過去にまとめた冊子もありますが、次世代の人まで理解できるような分かりやすい文章にしておきたいと考えています。まず、依頼できる機関や人を探す所から始めたいと思っています。文書館で協力いただけるのでしょうか。

## 〈回答〉

史料の画像と積文(解読文)をメール等で送っていただいた後、回答させていただきます。なお、墓石に刻まれた戒名やお堂の中にある仏像にある銘文などを併せてお調べいただくことでより詳細なレファレンスができると思います。

## 事例 5

## 〈質問〉

昭和10年の群馬県の古墳調査は、その前年に起きた「昭和天皇誤導事件(桐生鹵簿誤導事件)」で意気消沈する県民を元気づけるために行われたと聞きました。関連する資料があれば教えてください。

## 〈回答〉

『上毛及上毛人』昭和十年 第216号 P55～57(B K2645)、『群馬県古墳総合調査 活動内容調査中間報告』P11～12(GS GS20140003)、『群馬県の百年』P238～244(BLGB411 ウシ C06496)などにそのことに関連した記述が見られます。

## 事例 6

## 〈質問〉

文書館収蔵史料をテキストに古文書学習会を立ち上げようと思っています。リーダーとして解説文(釈文)を作りたいので、学習会の日程に合わせてレファレンスをしていただくことは可能でしょうか。

## 〈回答〉

お預かりする分量にもよりますが、レファレンスは可能です。メール等で釈文の添削を行うほか、毎月第2・第4水曜日の午後が対面レファレンス時間となっておりますので、その都度申し込んでいただければと思います。ちなみに対面でのレファレンスは1回につき1時間程度でお願いしております。

## 閲覧室からのお知らせ

### 1 新しいパソコン2台を更新しました。

閲覧室東側の複写コーナーに設置してあるブックスキャナー用パソコン2台について、3月に新しい機材に更新しました。ブックスキャナーとしての使用方法は従前と変更ありません。また、付属するディスプレイ・モニターも27インチ画面に大きくなりました。今回のパソコン更新は、電子公文書の閲覧公開に向けての環境整備の一環によるものです。令和8年度以降、当館で収蔵している特定歴史公文書のうち電子公文書の形態である文書について、順次、パソコンによる閲覧公開(※電子公文書を電子データのまま閲覧公開します。)が可能な仕組みを整備する予定です。



## 2 古墳調査台帳がパソコン上で閲覧できます。

当館所蔵の特定歴史公文書である古墳調査台帳（A1007A0B 1から41まで：41冊）は、昭和10年に県内全域で大規模に行われた古墳調査の記録であり、現在では失われた古墳など当時を知るための貴重な資料となっています。この古墳調査台帳が、令和8年1月30日に群馬県文化財保護審議会から新規に県の登録文化財とすることが答申されました。当該台帳は古い公文書であり経年劣化が進んでいるため、今回の登録文化財指定を機に、パソコン上でのデジタル公開に切り替えました。閲覧室内の検索用パソコン1台に古墳調査台帳41冊のデジタル画像データを登載しています。閲覧方法は紙文書の場合と変更なく、簡易閲覧申請をしてから、パソコン上での画像閲覧を行ってください。画像の拡大・縮小をしたり、印刷をしたりすることも可能です。



## 今後の行事予定

### 展示

- ・テーマ展示1 令和8年8月1日(土)～12月26日(土)(予定)
- ・テーマ展示2 令和9年2月2日(火)～12月26日(日)(予定)

### 講座

- ・古文書入門講座(10:00～12:00)(6月～7月予定)土曜日
- ・長期古文書講座(10:00～12:00)(9～11月予定 全10回)土曜日
- ・ぐんま史料講座1 10月末 群馬県民の日記念・文書館会館記念日行事
- ・ぐんま史料講座2 2月予定

### 逸品

- ・令和7年度文書館の逸品6 3月3日(火)～4月28日(火) 「古社寺調」桜咲き誇る(龍海院絵図)開催中
- ・令和8年度文書館の逸品1 5月1日(金)～6月28日(日)
- ・令和8年度文書館の逸品2 7月1日(水)～8月30日(日)
- ・令和8年度文書館の逸品3 9月1日(火)～10月30日(金)
- ・令和8年度文書館の逸品4 11月1日(日)～12月26日(土)
- ・令和8年度文書館の逸品5 1月6日(水)～2月27日(水)
- ・令和8年度文書館の逸品6 3月2日(火)～4月28日(日)



### 交通のご案内

- ◆ JR両毛線 前橋駅から徒歩25分、バス15分

群馬県立文書館だより第70号  
 令和8年3月31日発行  
 編集・発行 群馬県立文書館  
 〒371-0801  
 群馬県前橋市文京町3丁目27-26  
 電話 027-221-2346  
 題字/岡庭征人書